令和４年度　学校評価

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月27日実施）	総合評価 （３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	(1) ＩＣＴの利活用・国公立大学への進学希望への対応・学校の特色を反映させた新教育課程を編成・運用する。 (2) 情報や知識を統合して課題解決する力を育成するためのＩＣＴ利活用を推進する。	(1) 生徒の「高い目標」設定と目標実現を支援する「文理両道」の視点による理数教育の推進及び教育課程の運用。 (2) ＩＣＴ利活用及び理数教育を推進し、情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。	(1) 学年及び教科、グループが連携を図り、授業、総合的な探究の時間、学校行事、部活動を通して、文理両道の視点から多角的思考を促し、理数教育を推進する。また、生徒の進路希望に応じた選択科目の履修指導を行う。 (2) ＩＣＴを利活用し、「まず個で考え書き、次に協働により思考を共有し、最後に個で書き深める」という「個→協働→個」「内化→外化→内化」の構造を持つ授業に組織的に取り組み、授業研究を行い、授業を改善する。 (2) １人１台端末の効果的な授業への活用や使用法を研究・実践し、情報活用能力を高める。	(1) 理数教育を推進することができたか。生徒の進路希望に応じた履修指導ができたか。国公立大学への受験率が増加したか。 (2) 生徒による授業評価項目３及び６の「４」の回答が40％以上になったか。（課題解決について） (2) 生徒による授業評価項目８の「４」の回答が 40％以上になったか。（ＩＣＴの活用について）	(1) 以下の事業を実施し、理数教育を推進した。 ・高大連携事業（明治大学の講義受講） ・自然科学教室（箱根火山フィールドワーク、海の生物観察会、ムササビ鑑賞会） ・明治大学の立川教授による「総合的な探究の時間」に関する授業 ・京都大学の徳地教授による「森林生態系の物質循環及び河川水の水質形成」についての出前授業 ・公開研究授業及び明治大学嶋田教授による理数教育に関する教員対象講演会 (1) 国公立大学への受験数が増加した。（73 名） (2) 生徒による授業評価項目３及び６（課題解決について）の「４」の回答がそれぞれ 42％と40％となった。（12 月実施） (2) 生徒による授業評価項目８（ＩＣＴの活用について）の「４」の回答が 36％となった。（12 月実施）	(1)「文理両道」「理数教育推進」「科学的・論理的思考能力の育成」を重視して、教育課程を実施する。 (1) 学習支援Ｇ、進路支援Ｇ及び研究開発Ｇで連携しながら、履修指導を行うとともに総合的な探究の時間の内容やＳＳＨ申請に向けた理数探究基礎の設置等の検討を行う。 (2) ＩＣＴ利活用、とりわけ１人１台端末の活用を促進すべく、資料読解、思考・判断を伴う表現活動を重視し、Ｇｏｏｇｌｅ Ｗｏｒｋｓｐａｃｅを積極的に活用する。 (2)「習得・活用・探究」については、「情報活用→知識習得」の道筋を重視する。 (2) ７月実施の生徒授業評価結果より、各項目の４の回答の割合がすべて上昇した。引き続き研究授業や教科会等で授業研究や情報共有を行い、来年度はＩＣＴの項目においても 40％以上を目指していく。	・理数教育を推進されていて非常に良い。大学との連携も引き続き行い、生徒の進路選択が広がればと思う。 ・生徒による授業アンケートの結果から、熱心な学習指導が子どもたちに浸透していると感じる。 ・ＩＣＴはあくまで手段であって目的にならないよう、生徒にとって一番良い方法で活用してもらいたい。	(1) 理数教育を推進するにあたり、達成状況にある事業を実施し、生徒の興味や関心を高めた。事後の生徒のアンケートには、「文理融合した考え方が大事である」などの回答があり、一定の成果があがっている。各事業において、事前事後の指導を含め、内容のさらなる充実が必要である。 (2) 公開研究授業や研究協議、外部講師による講演会を通して、「個→協働→個」「内化→外化→内化」の構造を持つ授業に組織的に取り組み、生徒の授業評価において良好な結果が得られた。ＩＣＴの利活用及び１人１台端末の効果的な授業への活用方法の研究について、今後もより充実させる必要がある。	(1) 理数教育推進のため各事業のさらなる充実を図り、高大連携の強化やＳＳＨ申請に向けた理数探究基礎の設置等の検討を行う。 (2) 引き続き研究主題に沿った組織的な授業改善、授業研究を行う。また、１人１台端末の活用を促進するためＧｏｏｇｌｅ Ｗｏｒｋｓｐａｃｅの活用法の研修を行い、積極的に活用していく。
2	（幼児・ 児童） 生徒指導・支援	(1) 他人や自分を大切にし、社会の発展に貢献する力を育成する。 (2) 学校行事や部活動を通して、他者と協力して課題を発見し、解決する力を育成する。	(1)「過ごしやすい学校生活」を送るために社会生活上での規範意識やマナー等、自己指導能力の育成を図る。 (1) 教育相談体制を確立し、報告、連絡、相談を速やかに行う。 (2) 学校行事を精選し、他者との協働の学びの場を設ける。活気ある部活動、目標を持てる部活動を運営する。	(1) 生徒に本校の方針を理解させ、ルールやマナーを守り、主体的に行動できるよう支援を行う。 (1) いじめ防止教育などを通じ、他人を思いやる気持ちを育て、良好な人間関係の構築を図る。 (1) 教育相談の定義を明確にし、実態に合った相談体制、相談しやすい相談室の整備を進める。 (2) 学校行事を精選する。部活動の活動環境を整える。	(1) 生徒が正しい判断、行動ができる支援を行えたか。生徒の挨拶やいじめ防止に対する意識の向上がみられるようになったか。 (1) ＳＮＳ利用に関し、生田メディアポリシーを理解させ、情報モラルに対する意識を育てられたか。 (1) 交通安全、防犯に対する意識を高め、自転車通学における安全運転への意識、マナーが向上したか。 (1) 様々な問題を抱える生徒に対応できる相談体制、相談室の整備ができたか。 (1) ケース会議などで、情報の共有化が行われたか。 (2) 選択した学校行事が生徒の協働する意識向上を図れるものだったか。部活動の活動内容が満足いくような環境を整えられたか。	(1)　新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用、マスクを外したら「話さない」、「離れる」取組と常時換気の指導をした。 (1) ＳＮＳ等での誹謗中傷やいじめにつながる書き込みについて１年生に研修会を実施、また全校集会で理解を深めさせた。無断で他人の写真を掲載したり、悪口を書き込んだりする問題行動については、継続した粘り強い指導が必要である。 (1) 支援を必要とする生徒に対して毎週学年会や生活支援グループで情報共有した。(1) １年生は入学時に自転車運転免許証を発行して交通ルールを守るように指導した。百合丘高校と合同で交通安全指導の立番指導を行った。自転車事故は、７件発生している。自転車登下校での近隣からのご意見が多くある。 (2)　新型コロナウイルス感染症対策を十分にし、２年間行われなかった百生戦を開催した。冬期に運動部の生徒が協力し、グラウンド、コートに塩化カルシウムをまき、霜対策し、活動環境を整えた。	(1) ４月１日以降の方針、５月８日以降の方針を踏まえて、指導姿勢を一致させ、生徒を指導する。 (1) インターネット上で発信される情報の特質を十分に理解した上で、ネット上のトラブルについての最新の動向を把握する必要がある。インスタグラムのストーリーなどで気軽に投稿した内容が誹謗中傷になっているケースがある。ＳＮＳの問題行動が発見しにくいため、情報モラル教育をすすめるとともに保護者の理解を求める必要がある。 (1) 相談体制の一層の充実に努め、スクールカウンセラーと継続的に相談し生徒の悩みの解決やストレス解消等を図っていく。 (1)　通学時の自転車事故を未然に防ぐため、常に安全運転・交通ルールを順守させるように呼びかける必要がある。 (2)　部活動は生徒の自主的運営を旨とし、顧問集団の協働・分担により、そのための力を育み、支援する。 新型コロナウイルス感染症のため、体育でプール利用がなかったが来年度はプール環境を整え、プールを利用したい。	・自転車運転免許の取組などの交通安全指導により、マナーが改善されている。ヘルメットの着用等の奨励など、引き続き指導を継続していただきたい。 ・情報モラルに関する様々な取組を行っている点が評価できる。情報モラルの指導とともに、生徒の悩みに寄り添う支援が引き続き必要である。	(1)　新型コロナウイルス感染症対策のため、健康観察記録、手洗い、換気、黙食指導を上半期途中まで徹底した。 (1) SNS等での誹謗中傷やいじめにつながる書き込みについて、随時ＨＲ等で指導し、全校集会で理解を深めさせた。また、いじめアンケートを実施して、現状を把握した。 (1) 自転車運転免許証を発行して交通ルールを守るように指導した。 (1) スクールカウンセラーと連携し、教育相談に当たった。各学年会で必要とする生徒に関して情報を共有し、生徒理解を深めた。 (2) ２年間中止していた百生戦を開催することができた。十分感染対策を行ったうえで実施した。冬期に運動部の生徒が率先して塩化カルシウムをまき、霜対策することができた。	(1) 引き続き状況に応じて、指導を継続する。 (1) 情報モラル教育をすすめるとともに保護者の理解を促進する。 (1) 自転車でのヘルメット着用の啓発や登下校時の安全指導の充実を図る。 (1) SSWやSCとの連携や生徒との面談の時間の確保を図り、生徒理解に努める。 (2) 来年度の百生戦はコロナの状況を見極めたうえで、種目の検討を行う。また、部活動等の施設や設備の点検を行い、環境の整備改善を図る。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月27日実施）	総合評価 （３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)生徒に自分の適性に気づかせる機会を多数提供し、進路を主体的に探究できる力を育成する。 (2)早期に自分の目標を見つけ、多くの生徒がその実現に向け努力しようとする意欲を育成する。 (3)国公立大学への進学者を増やす。	(1)文理両道の視点で文系理系の枠に捉われず、生徒自身の興味・関心・適性など自己理解を深める取組を充実する。 (2)生田流「文武両道」を基に、生徒が高い目標を実現するための努力を継続的にできるような働きかけをより強化する。 (3)国公立大学への志望を諦めさせないための粘り強い指導を行い、受験者数を増やす。	(1)探究活動では、生徒が主体的に興味・関心を深められるよう、ＩＣＴを活用した理数教育で探究手法を指導する。他にも適性検査や学部学科別の説明会を充実させることで、自己理解を深めさせ、早期に高い目標に向けた努力を開始できるようにする。また、保護者向けガイダンス動画の内容充実と視聴回数増により、保護者の理解のもと、文武両道を継続しながら進路を決定できるようにする。 (2)塾・予備校に依存せず、部活動等と両立しながら主体的に学習できるよう、模擬試験の校内実施を充実させたり、貸出用問題集を新たに整備したりする。また、卒業生の体験談や成果を生徒向けに新たに発信することで、継続的に努力する意欲を向上させる。 (3)ガイダンスや個別面談を通じて、国公立大学の魅力、高い目標へ挑戦することの意味、多科目の受験勉強を乗り越える方法論を指導する機会を増やす。	(1)進路希望調査での志望決定率が増加したか。保護者向け動画の視聴回数が増加したか。 (2)模擬試験の受験者数が増加したか。問題集の設置数や貸出実績が増加したか。 (3)国公立大学の志望者数や合格者数が増加したか。	(1)探究活動は、一人一台ＰＣを利用した35時間分のカリキュラムを新たに策定し、理数教育に基づいた探究手法の指導を進めている。 (1)１年生では、適性検査にもとづく進路選択の検討（６月）、学部学科研究（７月）を実施。２年生では大学出張講義（７月）をもとに大学訪問とレポート（８月）の作成を行った。 (2)スタディーサポートや模擬試験は計画通り実施している。校内で模擬試験を計13回、延2,253人へ実施。また、貸出用に問題集コーナーを新設したり赤本を42冊増設したりし、生徒へのポスター掲示や個別相談を新たに実施することで、昨年度比 2.3 倍（延 512 件）の進路関連本を貸出した。 (2)夏期講習については、オンライン形式も可能であることを教員へ周知したり、使用可能教室を提示することで、例年よりも多い講座数となり、19 講座を開講した。 (3)３学年では学年集会（毎月 1 回）や進路説明動画の配信（２回）で挑戦することの意義や方法論を説明した。また、大学入学共通テストの志願者数は 326 名（92%）に上った。	(1)　文理両道の精神に立脚し、教科学習における「主体的・対話的で深い学び」「科学的・論理的思考能力の育成」「思考・判断を伴う表現活動」を推進することで、「総合的な探究の時間」との関係を強化し、理数教育を深化させる。 (1)大学出張講義について、理数教育と関連させた内容を増やす必要がある。 (2)スタディーサポートや模試のデータについて、全体指導や面談での声掛けだけでなく、継続的な個別指導に繋げる必要がある。 (3)引き続き来年度入試の傾向と高い目標に挑戦することの重要性を伝え続ける。	・探究活動も工夫しているように感じる。活動の中に地域とのつながりがあるとよい。 ・学習指導と進路指導をうまく組み合わせながら、生徒の進路実現に努めてもらいたい。	(1)探究活動では理数教育を踏まえて、内容を全面的に見直して、実施した。また、明治大学理工学部を訪問し、本校の考え方を伝え、高大連携を深めることについて賛同をいただいた。また、学部長による生徒向け特別講義を実施し、大学での実際の研究活動に関して、より深い学びを得ることができた。 (1)　大学出張講義では、３つの国公立大学を含む計 28 講座を開催することで、生徒の進路に対するイメージをより明確に持たせることができ、志望先を決められた２年生は 10 月の調査で 86%に上った。 (2)スタディーサポートの活用や模擬試験や進路関係の書籍を充実させるなど、塾・予備校に依存しない学習環境を実現した。 (2)夏期講習及び冬期講習については、オンライン形式を整備することで例年よりも多い計 24 講座を開講した。 (3)３学年では学年集会等で挑戦することの意義や方法論を説くことで、大学入学共通テストでは 256 名（73%）が実際に受験、国公立大学へは 73 人が志望した。	(1)理数教育を深化させるために、「総合的な探究の時間」と教科学習を連携させたカリキュラムや大学出張講義の内容を検討する。 (2)スタディーサポートや模試のデータについて、全体指導や面談での声掛けだけでなく、継続的な個別指導に繋げる。 (3)引き続き来年度入試の傾向と高い目標に挑戦することの重要性を伝え続ける。
4	地域等との協働	(1)学校運営協議会を活用し、教育活動の充実を図る。 (2)ＰＴＡとの連携におけるＩＣＴ利活用を推進する。 (3)ＨＰの更新頻度を高め、広報を丁寧かつ持続的に行う。	(1)学校運営協議会の活動を通して、理数教育の推進及び地域連携の強化を図る。 (1)小、中、高、大と地域の連携を図り、一つの行事を行う。 (2)ＰＴＡとの連携で引き続き ICT を利活用し、感染症対策・活動の効率化を図る。 (3)掲載内容の分かりやすさの向上及び迅速な情報提供、双方向性のある情報発信を行い、ＨＰの効果的な運営を図る。	(1)各部会において、積極的な意見交換等を通して情報共有を図り、教育活動の向上を図る。 (1)にこにこハーモニーを開催する。 (2)講習会を行ない、個人情報保護に配慮した安全な活用方法を確認する。 (3)各グループ、学年と連携を図り、掲載内容（文章や動画、写真等）の工夫を図る。また、中学生等からの質問に対して、ＨＰ上で回答を行う。	(1)　各部会において、積極的な意見交換等を通して情報共有を図り、教育活動の向上を図る活動ができたか。 (1)地域との連携がとれた行事ができたか。 (2)年度末に振り返りを行い、個人情報保護に配慮し、効率的な活動が行えたかご意見をいただく。 (3)学校見学や説明会でのアンケート結果等から学校ＨＰの充実度が高まったか。中学生等からの質問について学校ＨＰで回答することができたか。	(1)学校運営協議会を書面開催し、教育計画（目標）等の承認や学校の活動報告を行った。 (1)地域との行事であるながさわニコニコハーモニーは新型コロナウイルス感染症の影響により本年度も中止となった。今年度の清掃活動は、従来通り 11 月 22 日の７校時に１年生全クラスで行った。 (2)　年度当初ＰＴＡの会議で説明会を行い、オンライン会議の準備を行った。直近の会議で冬の感染症流行に備えてオンライン会議を行った。 (3)学校見学や説明会でのアンケート結果等から学校ＨＰを充実することができた。また、中学生からの質問等にもＨＰで対応した。	(1)学校運営協議会の対面形式による開催はコロナ対策としては問題なかったが、委員の日程調整が難しかった。より早期から日程を調整し、対面形式又はハイブリッド形式による開催を確実に実現したい。 (1)地域との交流を図る場として、清掃活動を行ってきた。今年は３年ぶりに従来通り行うことができた。このままコロナが推移すれば、次年度はながさわニコニコハーモニーが開催されるものと期待している。開催されれば、積極的に参加したい。 (2)対面会議が可能になるとオンライン会議の音声の悪さが目立つようになった。機器を整備して、音声の改善を図りたい。 (3)来年度も学校ＨＰの更新頻度を上げ、さらなる情報発信を行い、外部へ生田高校の魅力や特色を伝えていく。	・よく頑張っていると思う。高く評価したい。 ・来年度はニコニコハーモニー、商店会の写真のコンテストなど積極的に参加してもらいたい。 ・ＰＴＡも清掃活動など、積極的に各行事に参加させていただきたい。 ・中学生からの質問に学校ＨＰで対応され助かっている。	(1)新型コロナウイルス感染防止のため、今年もながさわニコニコハーモニーが中止となり、地域住民、小学校、中学校、大学と連携する機会が失われた。地域貢献活動は感染予防に気を配りながら行うことができた。 (2)オンライン会議等で使える性能の高い機器の導入で、快適な会議を行う準備が整った。 (3)学校ＨＰを通して、学校の特色等を保護者や中学生等に周知することができた。学校行事や部活動の活動状況の報告などの内容の充実や更新頻度を増やしていく必要がある。	(1)新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認しながら、できる限り地域との関連行事を実施する。 (2)コロナ後のＰＴＡ活動の在り方を検討していく。 (3)学校ＨＰを通して、外部のニーズに沿った情報発信を行い、随時更新して行く。
5	学校管理 学校運営	(1)関連グループと密接な連携を図り、ＩＣＴ利活用のインフラや新たなコンテンツ導入を中心とした整備を行う。 (2)老朽化した施設の更新、エアコンの整備等により、安心安全な学習環境を整備する。 (3)防災意識を高め実践できる教育の推進を行う。	(1)(2)ＩＣＴ利活用授業研究推進を継続し発展させていくため、さらに活用しやすい通信環境、備品の整備を行う。 (3)ＤＩＧ訓練を工夫し、生徒の防災意識を高める。	(1)(2)県の整備に合わせ、ルーターの配置を見直し、各教室のＷｉｆｉ環境の改善を行う。 (3)ＤＩＧ訓練時、学校周囲の防災情報の確認、災害発生時の学校の動きを知り、自分の動きを想像する等の項目を盛り込む。	(1)(2)アンケートを行い、前回実施の結果と比較して通信環境の改善が見られるか。 (3)生徒アンケートを実施し、防災意識が高まったかを確認する。	(1)(2)県の整備に合わせ、ルーターの配置を見直し、各教室内にＷｉｆｉを整備した。 (3)２学期始業式に、２年ぶりとなる避難訓練を実施した。	(1)(2)ルーターが教室内に配備され、ＨＲ教室の通信環境は改善されたが、特別教室、体育館は通信が細く、原因の調査と改善策を講じる。 (3)実際に計画した避難経路通りに動いてみると、いくつかの課題が明らかになった。訓練後に指摘されたことを元に見直しを行っていく。	・適切に取り組まれている。 ・Ｗｉｆｉ環境の配置整備が進むことで、今後もＩＣＴの活用が期待される。	(1)(2)ルーターが各教室に配備され、ＨＲ教室では１人１台端末での接続状況も良好である。特別教室等の通信の悪さは対策を講じる必要がある。 (3)避難訓練等により生徒の防災への意識づけとなった。また、避難経路を改善する必要があることがわかった。	(1)(2)県と連携し、遅い通信状況の原因の特定、改善を行う。 (3)避難経路は生徒の流れが悪く、次回の訓練では改善する。